小学校
４年

「相手に伝わる」ことを意識して紹介動画を作ろう

枚方市立小倉小学校

教科	国語	単元名	学校についてしょうかいすることを考えよう

本時のねらい

・宇治市立小倉小学校の４年生に向けた枚方市立小倉小学校の紹介動画を「相手意識」を持って作成することを通して、より相手に伝わるためには、どんな工夫が必要か考えることができる。

本時における１人１台端末の活用方法とそのねらい

・学習支援ソフト（ロイロノート）の共有ノート機能を活用することで、意見交流や動画の資料を自由に共有することができ、子どもたちがそれぞれの役割を決めて、編集作業を円滑に作業することができる。
・動画制作ソフト（iMovie）を活用することで、情報にアニメーションや効果・音源等を有機的に結合し、動画を簡単に作成することができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・動画制作ソフト（iMovie）　・学習支援ソフト（ロイロノート）　・デザイン作成ソフト（Canva）　・グリーンバック

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 （８分）	○動画づくりの目的を確認する。 ○本時のめあてを確認し、学習の見通しを持つ。 「相手に伝わる紹介動画を作ろう」 【写真１】	○大型テレビを活用し、学習の流れと動画づくりのめあての確認を行う。また、機器の使い方を確認する。
展開 （３２分）	○台本と撮影スケジュールの確認を行う。 ・紹介動画を見る相手のことを考えて動画が作られているか確認する。 ○動画の撮影作業を行う。 ○動画の編集作業を行う。 【写真２】	○台本と撮影スケジュールは学習支援ソフトの共有機能を活用して確認させる。 ○編集作業時は、それぞれ役割を決めて同時並行で作業を進めるように指導する。
ふりかえり （５分）	○どのような工夫があったか、他のグループの動画を見て気づきを全体で共有する。 ○他のグループの意見を共有して自分のグループの動画づくりにつなげる。【写真３】	○他のグループの動画を見て気づいたことを具体的にクラス全体で共有することで、自分たちの動画作成につなげさせる。

１人１台端末を活用した活動の様子

写真 １：相手に伝わる動画のポイントを、全員で確認している場面。

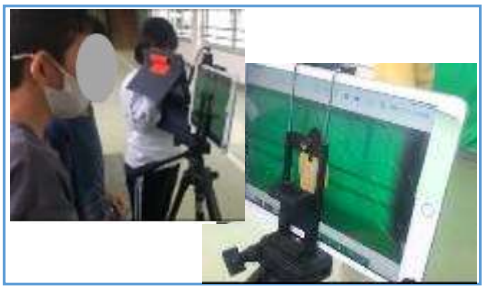

写真２：グリーンバックを使って動画を撮影している場面。

写真３：別のグループの動画を観て、相手に伝わる動画作りのためにどのような工夫があったか、全員で共有している場面。

児童生徒の反応や変容

・学校の紹介動画作りに「相手意識」と「目的意識」を明確に持たせることで、児童は、「見る側の視点」を常に持って動画作成に取り組むことができた。
・完成した作品をクラス全体で共有し動画作りの工夫を交流することで、自分たちが作成した紹介動画にとって足りない部分やさらに工夫すべきポイントを見つけることができた。交流後すぐに、自分たちの作成をブラッシュアップするグループが多くあった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・学校の紹介動画作りの活動を重ねる中で、児童同士のアドバイスが増え、児童が自分たちで試行錯誤しながら、より良い動画になっていった。
・学習支援ソフトの共有機能は、協働作業にはとても便利であるが、友だちの記述や作品を移動させてしまったり、誤って消してしまったりしないよう、事前にしっかりとしたルール作りが必要だと感じた。